

果樹の葉分析に関する研究

第2報 温州蜜柑園の葉分析調査

畠 中 洋*

HATANAKA, H. Leaf Analysis of Fruit Trees. Part 2. Citrus trees.

福岡県産早生温州60園、普通温州90園について、佐藤氏⁽¹⁾の方法により昭和29年8月下旬～9月上旬に採葉し、分析を行った。成績並びに考察 1) 葉成分について

温州蜜柑の葉成分

	N		P		K		Ca		Mg		調査園数
	範囲	平均	範囲	平均	範囲	平均	範囲	平均	範囲	平均	
早生	2.11~3.30	2.72	0.09~0.19	0.15	1.06~2.95	1.89	2.22~5.53	3.78	0.12~0.73	0.34	60
普通	1.32~3.98	2.86	0.11~0.28	0.18	0.89~2.28	1.77	2.12~5.21	3.65	0.13~0.49	0.27	90
全園	1.32~3.98	2.81	0.09~0.28	0.17	0.89~2.95	1.82	2.12~5.53	3.69	0.12~0.73	0.32	150

葉成分の平均値は、N、Pは普通温州の方が高く、K、Ca、Mgは早生温州の方が高かった。特にMgについては、早生温州32点、普通温州73点が欠乏状態または欠乏の限界に達していた。

2) 優良園の葉成分 隔年結果せず過去4ヶ年連続して700貫以上の反収をあげている園(優良園)の葉成分は下表の通りである。多収をあげるに必要な葉成分含量は1)、2)よりしてN:2.80%, P:0.16%, K:

0.14%(Ca:3.30%, Mg:0.30%)位ではないかと思われる。

3) 収量と葉成分 N:収量が多くなるに従って葉成分もいくらか多くなっている。

優良園の葉成分

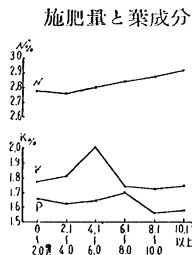
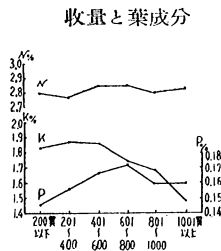
		N	P	K	Ca	Mg	反収収量(貫)	調査園数
範囲		2.10~3.35	0.11~0.21	1.18~2.37	2.12~4.37	0.13~0.41	725~1100	
平均	早生	2.73	0.15	1.85	3.68	0.23	862	7
	普通	2.85	0.17	1.67	3.33	0.25	870	19
	全体	2.82	0.16	1.72	3.42	0.25	858	26

* 福岡県立農業試験場豊前分場

(1) 農業技術研究所報告 E(園藝) 第1号 昭和27年3月

P:収量800貫位までは収量が増すにつれて葉成分も多くなってくるが、800貫以上になると変わらないようである。

K : 収量が増すにつれて葉成分は漸減する傾向が認められる。



4) 施肥量と葉成分 N : 施肥量の増加と共に葉成分も増加する傾向が認められる。

P : 施肥量の多少にかゝらず一定の傾向は認められず、強いて言えば大部分のものが施肥量に関係なく、0.16~0.17% の範囲にあるので、磷酸の肥効を高める処置をとらねばならない。

K : 施肥量 6 貫位までは葉成分の増加が認められるが、それ以上になると施肥量に関係なく略一定のようである。